

Magic xpi 4.14.1 Release Notes



目次

新機能と機能拡張	3
モニタ拡張.....	3
新しいコネクタ	4
コネクタのローカルエージェント開発サポート.....	4
クラウドネイティブサポート.....	4
RESTful API のダイジェスト認証サポート.....	4
クラウドでの確実なプロジェクトデプロイ.....	5
プロジェクトのカスタム依存関係を追加するためのプロビジョニング.....	5
フロー リクエスト履歴とアクティビティ ログのクリアランス設定.....	7
オープンテレメタリをサポート.....	7
VHDX の手動インストールの準備.....	8
スキーマを生成する OPC コネクタ.....	8
Magic xpi 4.14.1 Windows へのアップグレード	8
既知の問題と制限事項.....	9
既知の問題.....	9
制限事項.....	20
修正されたバグ.....	21
免責事項.....	38

クラウドネイティブサポートを備えたMagic xpi4.14.1をリリースすることをうれしく思います。

このバージョンは、ユーザー エクスペリエンス、安定性、セキュリティ、パフォーマンスの向上を主な焦点として設計および構築されています。新しい単一のダウンロードおよびインストール スクリプトにより、IMM のインストールがはるかに簡単になりました。IMM インストーラーは、Windows と Linux Ubuntu の両方で使用でき、ダウンロード エリアから取得できます。Linux Ubuntu インストーラーは、高可用性クラスターの展開もサポートしています。

他の多くの品質改善に加えて、このバージョンでは 3 つの新しいコネクタと 5 つのコネクタの ローカルエージェント開発サポートも導入されています。

新機能と機能拡張

Magic xpi 4.14.1 には、次の新機能と拡張機能が含まれています。：

モニタ拡張

Magic xpiモニタでは以下の拡張機能が提供されています。

アクティビティログのテキスト検索

アクティビティログのフリーテキスト検索のサポート。

ゲスト アクセス サポート

制限付きゲスト ユーザー アクセス のサポート。

プロジェクトのSLA構成

IMM 全体でプロジェクト展開 SLA を定義するための中央インターフェイスを提供します。

IMM は SLA 定義を維持しようとしています。これは新機能であり、将来のバージョンで改善と強化に取り組んでいきます。これらの機能に加えて、モニターには、検索、アクティビティログの削除フィルター、操作データなど、全体的なパフォーマンスの向上も含まれています。



新しいコネクタ

Magic xpi4.14.1では以下の新しいコネクタが導入されました：

- D365-Business Central
- Azure Service Bus (ASB)
- Apache Kafka

コネクタのローカルエージェント開発サポート

以下のコネクタがローカルエージェント開発をサポートするようになりました：

- D365-Finance Operations
- D365-Business Central
- FTP
- FileWatcher
- JDBC

クラウドネイティブサポート

Magic xpi 4.14.1スタジオは、クラウドデプロイメントを容易にするためにカスタム依存関係管理をサポートするようになりました。この機能の詳細については、**Magic xpi Cloud Native.pdf** ドキュメントを参照してください。

RESTful APIのダイジェスト認証サポート

Magic xpi4.14.1は、RESTful API のダイジェスト認証をサポートするようになりました。



クラウドでの確実なプロジェクトデプロイ

以前のバージョンまでは、プロジェクトを Cloud Native にデプロイしてスムーズに実行するには、プロジェクトの依存関係をデプロイするコンテキストで手動の介入が必要でした。

たとえば、次の操作が必要でした。：

- **OData** および **Restful** の周辺にXML ファイルを移動する
- **JDBC API** の **¥databasedrivers** フォルダにドライバファイルを手動でコピーする
- **Web サービス**用のWSDL ファイルをMagic xpi SOAP Server に移動する
- **JD Edwards** コネクタの **¥dependencies** フォルダに jdedwards-ext および jdedwards-config フォルダを移動する

これらの依存関係のデプロイはMagic xpiによって自動的に管理されるようになったため、依存関係のあるプロジェクトのデプロイがシームレスかつ簡単に行えるようになりました。

プロジェクトのカスタム依存関係を追加するためのプロビジョニング

Magic xpi 4.14.1スタジオは依存関係機能を拡張し、ユーザ定義の依存関係をプロジェクトに追加し、それを Cloud Native に自動的にデプロイできるようになりました。

OData、JDBC、RESTFul API、Web サービス、JD Edwards、TCP リスナーなど、Magic xpi ビルド プロセスによって自動的に処理される依存関係がいくつかあります。

次の 3 種類のカスタム依存関係を追加できます。

- i. **Local**(ローカル)：プロジェクトに必要なローカル リソース。
- ii. **External**(外部)：インターネットからダウンロードする外部の依存関係。
- iii. **Service**(サービス)：スクリプト、ローカル エディタなどを使用して必要なフォルダ構造を作成する依存関係。



例えば：

External(外部)タイプとして使用する MSSQL で JDBC を使用できるようにするために、インターネットからの最新の .JAR ファイルなどの依存関係が必要な場合や、**サービスとして使用する外部サーバー** JBoss (JMS 用) や RabittMQ (MQTT 用) を起動する独自のスクリプトを作成する必要がある場合があります。

同様に、プロジェクトにカスタム コネクタ、xsdファイル、外部リソース、サービスなどがあり、プロジェクトを Cloud Native にデプロイする場合、Magic xpi4.14.1を使用すると、これらのカスタム依存関係を組み込んでプロジェクトを自動的にデプロイできます。必要なのは、メニュー オプションの Magic xpi スタジオ > プロジェクト > 「カスタム依存関係...」を開き、カスタム プロジェクト依存関係のリストでプロジェクト依存関係を指定することだけです。

.dependencies ファイルに次のエントリが追加されます：

- JD Edwards JAR ファイルと config フォルダ。
- TCP Listenerトリガーによって使用されるすべてのポートを TCPLListenerPorts.txt ファイルにリストする必要があります。このファイルに記載されているポートは、MCM によってデプロイ時に参照されます。

フロー リクエスト履歴とアクティビティ ログ のクリアランス設定

Magic xpi4.14.1では、MongoDB でフロー リクエスト履歴を設定できるように、次のパラメータが導入されました:

1. REQ_HISTORY_THRESHOLD_IN_DAYS

指定した時間でMongoDB からフロー リクエスト履歴をクリアします。

2. LOG_HISTORY_THRESHOLD_IN_DAYS

指定した時間でMongoDB からアクティビティログをクリアします。

上記のパラメータを **values.yaml** の **immController > env** セクションに記述してください。

オープンテレメタリのサポート

実行中の各プロジェクトのアクティビティ ログを MongoDB に書き込むことに加え、Magic xpi4.14.1ではアクティビティ ログを **OpenTelemetry** サーバーに書き込む方法も提供されています。

Magic xpi モニターの **Magic xpi 管理 > OpenTelemetry** セクションで、Exporter Type(エクスポート タイプ) と OTEL Collector URL(OTEL コレクタ URL) を設定してください。

VHDX の手動インストールの準備

インストールには VHDX をインストールする方法がありますが、それをスキップして手動でインストールしたい場合は、次のコマンドを使用します:

```
powershell -noexit -ExecutionPolicy Bypass -File .\imm-install-airgap4.14.1.373-  
windows-0.2.9.11.1.ps1 -artefactPath "c:¥VHDX¥
```

-artefactPath は、スクリプトに渡すパラメーターです。値は、VHDX フォルダーパス、<drive>:¥VHDX です。

注: このコマンドを正常に実行するには、VHDX ファイルとスクリプト ファイルを同じフォルダーに配置する必要があります。

スキーマを生成する OPC コネクタ

OPC コネクタは、コネクタ設定で取得したデバイス リストのスキーマを生成できるようになりました。これにより、同じデータに対して自動生成されたスキーマを使用して、受信したデータを解析するプロセスが簡単になります。Magic xpi ヘルプ ページ ホーム > コンポーネント シリーズ > OPC > **OPC – XML** を参照してください。

Magic xpi 4.14.1 Windowsへのアップグレード

- Magic xpi 4.14.1 にアップグレードしたら、IMM を再デプロイする必要があります。
- Microk8s v1.30 で IMM をテストしております。Microk8s v1.26 との互換性も維持しています。



既知の問題と使用上の制約

以下の既知の問題と制限事項を認識しています。

問題

- Magic xpi 4.14.1 にアップグレードしたら、IMM を再デプロイする必要があります。
- Magic xpi モニタの左ペイン メニューの**プロジェクト SLA** オプションは、設定後すぐには有効にならないため、有効にするにはすべてのサーバでエージェントを再起動する必要があります。
- 現在、SLA 構成が現在実行中のプロジェクトの構成と一致しない場合、SLA 違反のアラートは発生しません。また次のことは実行できません：
 - ✧ 複数のSLA定義する。
 - ✧ インストール時にプロジェクト SLA を定義する。
 - ✧ プロジェクトに複数の代替ホストを定義する。
- SSOで Magic xpi モニタにログインすると、自動的に管理者権限が付与されます。
- 一部のマシンでは、環境外部エディタ (EEE) が動作しない場合があります。
- プロジェクトSLA機能は、プロジェクト ポッドには一意の名前があり、SLA サポートはエージェントの名前に基づいているため、クラウド ネイティブではサポートされていません。
- Magic xpi モニタのアクティビティ ログ タブでは、プロジェクトが「自動起動」、「自動繰返」、または「Go-Toフロー」条件で継続的に実行されている場合、データの時間差が発生する場合があります。
- IMM エージェントまたはデバッガーは、両方のマシンで時間に差がある場合に IMM サーバーに接続します。
- 「ライセンス使用状況と利用可能なワーカーの時間経過」グラフは、Magic xpi モニタのダッシュボード タブに生成されません。
- 複数のプロジェクトが実行中の場合、消費されたライセンスの合計数は、Magic xpi モニターのダッシュボード タブに表示されません。

- ルート ディレクトリ (Windows ホーム ドライブ) にあるプロジェクトは、Magic xpi モニターに表示されません。ApplicationsList.xml ファイルに '`<ProjectsFolder FolderPath="c:¥" />`' パスが設定されている場合、モニターにプロジェクトを表示するには IMM エージェントを再起動する必要があります。
- 共有ネットワークの場所にあるプロジェクトは、Magic xpi モニターに表示されません。ApplicationsList.xml ファイルに '`<ProjectsFolder FolderPath="¥¥10.9.7.253¥New¥magic" />`' パスが設定されている場合、Magic XPI モニターにプロジェクトを表示するには、IMM エージェントを再起動する必要があります。
- SSL (シングルノードおよびマルチノード) を搭載した Magic xpi のパフォーマンスは、以前の xpi バージョンのベンチマークと比較されるものと見なされます。
- ごくまれにクラスター環境での MongoDB のマスター選択が失敗し、DB がリセットされ、データが失われる可能性があります。
- LogDB のクリーンアップにより、新しいプロジェクトのアクティビティ ログが削除される可能性があります。
- プロジェクトをデバッグするには、既存の IMM デプロイメントが必要です。
- IMM 検証機能 (インストール中に IMM 構成がスキップされた場合に表示されます) は、IMM の MCM/クラウド ネイティブデプロイでは機能しません。
- MQTT トリガーは、MQTT サーバーとの「Loss of communication(通信の喪失)」イベントで再接続に失敗する場合があります。
- RESTful API コンポーネントのプロジェクトに**Save Copy As**(名前を付けて保存)する場合は、RESTful サービスとトリガーを再設定する必要があります。プロジェクトを正常に実行するには、**Save All** (すべて保存) ボタンをクリックしプロジェクトをリビルドしてください。
- Azure Service Bus XML インターフェイスを介して日本語でメッセージを送信する場合は、Unicode 文字のみがサポートされます。
- 4.14.1 と 4.14 の同時インストールはサポートされていません。
- Excel ファイルに数式が含まれている場合、Renameメソッドは機能しません。
- 古いサービス パックが適用された Windows マシンを使用している場合、コネクタ ビルダーと環境設定のショートカットは機能しません。



- IBM-i コネクタ メソッドで無効なデータが意図的に送信された場合、エラーコードは期待どおりに表示されません。
- SAP ERP では、SalesOrder(受注)はローカルエージェントを使用してコミットされません。
- ユーザー名またはパスワードに日本語の文字を使用して IMM をデプロイすると、外部トリガー (HTTP、Web サービスなど) が実行時に失敗します。
- 「xpi モニタ アクティビティ ログ」タブにおいて、レコードを削除するとき、時間の値は考慮されません。入力された時刻に関係なく、指定された日付のすべてのレコードが削除されます。
- Magic xpi4.1 4.1は同一サーバ内で過去バージョンがインストールされている場合、インストールしても正しく動作しません。また、過去バージョンも正しく動作しなくなります。
- 既存のバージョンのMagic xpi の上に古いバージョンの Magic xpi をインストールすると、正しく動作しない可能性があります。
- [環境設定] ウィンドウを使用してプロジェクトを開くと、Web サービス クライアントの 詳細が空として表示されます。スタジオでプロジェクトを開くと、値は環境設定に正しく表示されます。
- データ マッパーの UPSERT 操作には、列名にスペース文字が含まれるテーブルを処理する際に制限があります。PostgreSQL データベースの場合、データ マッパー ツリーに " 無効な SQL ステートメント" エラーが表示されます。DB2、DB2400、MySQL、PervasiveSQL データベースの場合、ウィザード・プロセスが不完全になるため、名前にスペースが入っている列は「列」ページに表示されません。
- 日本語環境で Magic xpi を使用する場合、UDS テーブルから変数の日付タイプまたは日付 フィールドの値を表示すると、デバッガーのコンテキストビューに「値は日付形式をサポートしていません」というエラーが表示されます。
- 複数の Web サービス トリガーが同じオペレーション名を持つ場合、不正なフローが呼び出されます。
- 日本語環境で Magic xpi を使用する場合、デバッグ時のIBM i コンポーネントのステップ 実行が実行時に 停止する場合があります。
- JD Edwards Enterprise One ステップは、論理名を持つリソースに対して構成できません。



- MySQL データベースの INSERT 操作中に、日本語の文字を含む名前を持つテーブルに挿入されたレコードは文字化けする場合があります。この場合、UPDATE 操作も失敗します。
- プロジェクトのデバッグを実行した後、プロジェクトが停止し、Studio が閉じられた場合でも、start.xml ファイルの削除に失敗する場合があります。
- OPC コンポーネントの場合、チャンネル名、デバイス名、およびアイテム名に Unicode 文字が使用されている場合、実行時にエラーが発生して失敗します。
- Magic xpi をスペースを含むフォルダにインストールする際は、8dot3name サポートを有効にしておかなければなりません。詳細は Magic xpi インストールガイドを参照してください。
- Magic xpi をインストールするユーザおよび起動するユーザはインストールするコンピューターに対する Administrator 権限が必要です (Administrators グループに所属する必要があります)。
- Magic xpi では、変数名の長さは 30 桁までです。しかしながら Magic xpi 4.14.1 は変数に接頭辞として F.、C.、G. を自動的に付与します。ゆえに変数名の実質的な最大長は 28 桁となります。
- プロジェクトを jBOLT V3.0x および V3.2x、Magic xpi 3.4、Magic xpi 4.1 から Magic xpi 4.14.1 に直接にアップグレードした場合、リソース内に指定した各パスワードは再定義する必要があります。
- Magic.ini ファイル内 [MAGIC_SPECIALS]セクションの
SpecialAnsiExpression=フラグ の値で、文字列の扱い方が変わります。

✧ **SpecialAnsiExpression=Y** の場合 : 日本語文字列をバイト単位で取り扱います。

✧ **SpecialAnsiExpression=N** の場合 : 日本語文字列を文字単位で取り扱います。

従って、UNICODE 文字を使用する場合は、必ず

「**SpecialAnsiExpression=N**」と設定してください。

「**SpecialAnsiExpression=Y**」と設定した場合、文字化けを起こす場合があります。

インストール時のデフォルト設定は「**SpecialAnsiExpression=N**」となっています。



プロジェクトのマイグレーション時には、この点に注意が必要です。

Magic jBOLTV3.0、3.2 のデフォルト設定は : **SpecialAnsiExpression=N**

Magic xpi 3.4 のデフォルト設定は : **SpecialAnsiExpression=Y**

Magic xpi 4.1から4.14のデフォルト設定は : **SpecialAnsiExpression=N**
となっている点にご注意ください。

このフラグの値により、文字列操作関数の結果も異なります。

例えば、Len()関数の 場合 :

SpecialAnsiExpression=N の時 : Len('あいうえお')は 5 (5 文字)

SpecialAnsiExpression=Y の時 : Len('あいうえお')は 10 (10 バイト)
を返します。

SpecialAnsiExpression の設定値で動作に影響がある関数は以下の通りです。

InStr()	Len()	MID()	MIDV()	Right()	Left()	StrToken()
StrTokenCnt()	StrTokenIdx()	Del()	Fill()	Ins()	Rep()	RepV()

- .NET Utility で作成した.NET Framework 対応プログラムを含むプロジェクトを実行した 際、以下のエラーが発生する場合があります。

Error in .NET invocation:IFC1.IFC1 Code:2140930047 Set
Property:iBOLTFramework.dll location

このエラーが発生した際は Iboltinvoker.dll ファイルをレジストリから一旦削除し、以 下 のコマンドでレジストリに再登録してください。:

'RegAsm iboltinvoker.dll /tlb:iboltinvoker.tlb'

- スタジオは Magic.ini ファイルの classpath を読み込みません。代わりに、OS 環境変数 の classpath に jar ファイルを指定するか、jar ファイルを runtime¥java¥lib フォルダ にコピーする必要があります。
- Magic xpi はバージョン管理を行うバージョン管理ソフトウェアをサポートしています。プロジェクトツリーが変更された場合は、バージョンコントロールプロバイダのエクスポ ーラを使用してプロジェクト全体を取得する必要があります。
- フローを一時停止に設定しても、フローは自動的にチェックアウトされません。
- エディタで開く コンテキストメニューオプションはマッパファイルではサポートされま せん。



- Notes DB リソースのホスト名プロパティでは環境変数は使用できません。
- resources.xml ファイルと services.xml ファイルがプロジェクト フォルダ内に存在する場合、スタンドアロン エディタはリソースとサービスの編集のみ行うことができます。
- 数値の場合、ノード特性(データマッパー)の書式プロパティには N12.4 のように、数値、小数点、マイナスを表す N のみ指定することができます。
- 入力値パラメータにスペースを含む文字列が設定されている場合、検証コンポーネントの Empty Field メソッドは False 値を返します。
- プロジェクトを Magic xpi 4.14 にマイグレーションする前に、データマッパーで使用する 全ての XSD ファイルが所定の場所で使用可能であることを確認してください。
- パーセント記号 (%) は、データベース リソースのパスワードでは使用できません。
- アップグレードされた Magic xpi 4.14.1 プロジェクトでは、既存の SAPB1 リソースを変更して SAP HANA データベースを使用することはできません。SAP HANA データベースを使用するには、新しい SAPB1 リソースを作成する必要があります。
- 一部日本語表示されない画面、メッセージがあります。
- Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能 x64 がインストールされていない場合、.Net/IIS Web リクエストは正しく動作しません。(特に OS のクリーンインストール後は注意する必要があります)
- 旧バージョンからマイグレーションをしたプロジェクトを保存する際、ソリューションファイル(*.sln)ファイルの保存先として、¥¥¥.sln がデフォルト保存先として表示されますが、このフォルダには保存せず、¥¥.sln として必ず保存してください。
- Magic モニタは利用できる Web ブラウザとして Edge、Chromeをサポートします。他の Web ブラウザはサポートされません。
- Google Calendar コンポーネント でユーザアクセス制御権限を参照する場合、Google Calendar™ からは以下の値が返されます。 : freeBusyReader, reader, writer, owner
- Google Calendar コンポーネントは Google Calendar™から存在しないユーザのアクセス 権を取り消そうとした場合、エラーを返しません。
- Salesforce コネクタは Proxy プロキシ への認証が基本認証のみの場合は動作しま



せん。

- Salesforce Lightning Experience インターフェースを使用している場合、アラートレポートは結果を返さず、「この開発者名は無効です。チャートを含むレポートの開発者名を入力してください」というエラーが表示されます。
- データマッパーで適切な変換が行われない限り、Unicode データは Base64 としてエンコードされた XML ノードにマップすることはできません。
- データマッパーでデータベースにアクセスする際、select、delete、update 文で where 句を使用する場合、文字列項目の前後に必ず「'(シングルクォーテーション)」を付与する必要がある場合があります。

<例> update 社員マスタ set 住所='神奈川県' where 社員 ID='<?C.UserString?>'

- データマッパーでデータベースにアクセスする際、select、delete、update 文で where 句を使用する場合、文字列項目の前後に必ず「'(シングルクォーテーション)」を付与する必要がある場合があります。
- データマッパーの送り先に変数 (Variables) を設定し、送り先の文字型変数に半角空白かブランクを計算値として入力した場合、結果として文字型変数には NULL が設定されます。
- データベース名、テーブル名、列名に環境依存文字が使用されている場合、データマッパーおよび SQL ウィザードでは一覧にテーブル名等が表示されません。
- ODBC 接続は Windows プラットフォーム上の DBMS に対する接続がサポートされます。Windows プラットフォーム以外の DBMS に対する ODBC 接続はサポートされません。Magic xpi 4.14.1 は Oracle、MSSQL、DB2、DB2/400 に対しては専用の接続モジュールにより接続、動作を行います。ODBC での接続およびその動作は DBMS ベンダー等が提供する ODBC ドライバに依存します。ODBC 接続を行う際は事前の検証が必要な場合があります。
- 互換性のないバージョンの Postgre ODBC Database Driver がシステムにインストールされていると、Magic xpi は PostgreSQL Database 用の ODBC 接続を作成できません。
- CallPublic 関数への入力値として Data Mapper ソースノードを渡すと、引数によって予期しない応答が発生します。

- XML 位置転送で、呼び出されたフローの直接の非複合型子要素にアクセスする場合、チェッカーがこのマッピングを誤ったマッピングとして捉えることができないため、意図しない動作になる場合があります。
- Magic xpi 4.14 のデータマッパーおよび IBM i コネクタがサポートしている IBM i OS バージョンは V5R4 以降です。
- Magic xpi 4.14.1 でデータマッパーおよび IBM i コネクタを使用するには IBM i に Host Library のインストール/設定が必要です。インストールおよび設定については Help フォルダ内「Magic xpi 4.x-DB2400.pdf」を参照してください。
- データマッパーの送り先で IBM i 上の DB2/400 を使用する場合、ウィザードで SQL 文を生成すると分離レベルとして「WITH NC」が付加されます。この場合、フロー特性・データマッパー構成のトランザクション設定は挿入時にのみ有効になります。更新・削除時にトランザクション処理を行う場合には「WITH NC」を削除してください。
- データマッパーの送り先で IBM i 上の DB2/400 上のジャーナルの存在しないテーブルに対して更新・削除を行う場合、分離レベルとして「WITH NC」が指定されている必要があります。
- DB2/400 において、ジャーナルの存在しないテーブルを扱う場合にはフロー特性およびデータマッパー構成のトランザクション設定は無視されます。
- IBM i 上の DB2/400 の DBCS 専用/混用/折一フィールドに対し DBCS 文字列で更新を行う場合、シフトイン・シフトアウトコードの付加により桁数がオーバーした場合にはエラーになります。
- IBM i データタイプの浮動小数点数型(FLOAT 型)はサポートされません。
- 複数の IBM i システムを利用する場合、異なる名前のホストライブラリを複数同時に利用することはできません。すべての IBM i システムのホストライブラリが同じ名前である必要があります。
- IBM i コネクタのメソッド「Run Query」を使用する際、「クエリ名」欄には「ライブラリ名/クエリ名」の順序で指定してください。同様に、「クエリファイル」欄には「ライブラリ名/クエリファイル名」の順序で指定してください。ヘルプファイルにはそれらの順序が逆の指定になっているので、注意が必要です。また、同メソッドの「出力タイプ」欄に、パラメータ「*DISPLAY」の値は有効ではありません。指定しても System i(IBM i) 側では Run Query は実行されません。

- Magic xpi 4.14.1が IBM i に接続する際、IBM i 側ユーザプロフィールの CCSID は 5035 にしてください。それに合わせて、Magic xpi 4.14 側 MAGIC.INI の[MAGIC_DBMS]の DBCS パラメータ設定は以下のように設定してください。

DBCS=IBM-943:IBM-503

- IBM i コネクタでデータキューの送受信を行う場合（Send data to Queue、Receive Queue Data、及びトリガー使用時）、キューのデータ長は実際の長さよりも余裕を持たせてください。十分な長さが無い場合、文字化けをすることがあります。
- Domino および NotesDB コンポーネントをトリガーとして使用することはできません。
- Microsoft Excel/Microsoft Word コンポーネント利用時の注意 サーバ OS では WindowsServer2008 以降の OS でセキュリティ対策の一環として、セッション 0 の分離の対応がなされています。

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/windows/dd871151.aspx>

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa480152.aspx#EGFAE>

このセッション 0 の分離の影響により、Windows のサービスで起動された Magic xpi サーバでは、Microsoft Excel コンポーネントや Microsoft Word コンポーネントを利用した、Office 連携処理が動作しないことが確認されました。

この問題に対処するには、「Magic xpi 4.14 IMM Agent」サービスを Windows のサービスではなく、以下のプログラムを手動で起動することで対処します。

<Magic xpi>%Runtime%\InMemoryMiddleware\agent\imm-agent.exe

このプログラムを起動するには、Windows サーバに Administrator 権限を持ったユーザでログインする必要があります。起動した状態で Windows サーバからログオフすると、全 Magic xpi プロセスが停止してしまうのでご注意ください。

- SharePoint コンポーネントにおいて、SharePoint Online(office365 認証)でユーザサイトを作成した場合、リソース設定の「Site」欄に、作成したユーザサイト名を記述する必要があります。その際、作成したサイトの日本語名を設定するのではなく、URL のユーザサイト部分（半角英数文字）を設定してください。（例日本語サイト名：チームサイト → URL 内ユーザサイト部分：TeamSite）



- SharePoint Online コンポーネントはレコードサイズ(ドキュメントとフォルダを含む)が 5,000 を超えると、リスト、ライブラリ、フォルダに対してのクエリに失敗する場合があります。
- ファイル管理コンポーネントのコマンドラインで実行ファイルを指定する場合、ファイルパスに空白が含まれていると、正しく動作しないことがあります。
- File Archive コンポーネントでは ファイル名に「(」、「)」が含まれている場合、正しく動作しません。その際はワイルドカードの「?」を指定してください。
- File Archive コンポーネントではファイルパス、ファイル名(接頭辞を含む)に日本語が使用されている場合、日本語が文字化けします。
- File Splitter コンポーネントでは ファイル名に「(」、「)」が含まれている場合、正しく動作しません。
- File Splitter コンポーネントではファイルパス、ファイル名に日本語が使用されている場合、日本語が文字化けします。
- FTP コンポーネントにおいて、ファイル名およびフォルダ名(ローカル/サーバ共に)を指定する際、環境依存文字は使用できません。
- SAP ERP コネクタの使用時、以下のような Java Runtime エラーが発生する場合があります。

java.lang.UnsatisfiedLinkError: C:\¥Magicxpi4.14.1¥Studio¥sapjco3.dll:
このアプリケーションの構成が正しくないため、アプリケーションを開始できませんでした。アプリケーションを再度インストールすることにより問題が解決する場合があります。

```
at java.lang.ClassLoader$NativeLibrary.load(Native Method) at
java.lang.ClassLoader.loadLibrary0(ClassLoader.java:1803) at
java.lang.ClassLoader.loadLibrary(ClassLoader.java:1728) at
java.lang.Runtime.loadLibrary0(Runtime.java:823) at
java.lang.System.loadLibrary(System.java:1028) at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.loadLibrary(DefaultJCoRuntime.java:443) at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.registerNativeMethods(DefaultJCoRuntime.java:309) at
com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntime.registerNatives(JCoRuntime.java:1030) at
com.sap.conn.rfc.driver.CpicDriver.(CpicDriver.java:956) at
com.sap.conn.rfc.engine.DefaultRfcRuntime.getVersion(DefaultRfcRuntime.java:43) at
com.sap.conn.rfc.api.RfcApi.RfcGetVersion(RfcApi.java:261) at
com.sap.conn.jco.rt.MiddlewareJavaRfc.(MiddlewareJavaRfc.java:200) at
```



```

com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.initialize(DefaultJCoRuntime.java:74) at
com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntimeFactory.(JCoRuntimeFactory.java:23) at
com.sap.conn.jco.rt.RuntimeEnvironment.(RuntimeEnvironment.java:42) at
sun.reflect.NativeConstructorAccessorImpl.newInstance0(Native Method) at
sun.reflect.NativeConstructorAccessorImpl.newInstance(NativeConstructorAccessorImp
l.java:39) 13 at sun.reflect.DelegatingConstructorAccessorImpl.newInstance
(DelegatingConstructorAccesso21rImpl.java:27) at
java.lang.reflect.Constructor.newInstance(Constructor.java:513) at
java.lang.Class.newInstance0(Class.java:355) at
java.lang.Class.newInstance(Class.java:308) at
com.sap.conn.jco.ext.Environment.getInstance(Environment.java:125) at
com.sap.conn.jco.ext.Environment.registerDestinationDataProvider(Environment.java:
220) at com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBConnection.register(Unknown Source) at
com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBConnection.(Unknown Source) at
com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBSapR3.(Unknown Source)

```

このエラーが発生した場合、以下の URL より「Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ ATL のセキュリティ更新プログラム」を取得し、インストールする必要があります。

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=14431>

- DynamicsAX コネクタを使用するには、Magic xpi をインストールするコンピュータに以下を予めインストールしておく必要があります。NET CLR(Common Language Runtime : 共通言語ランタイム)が 2.0 である必要があります。

Windows10、11、Windows Server 2016以降場合

- NET Framework2.0、3.0、3.5 のいずれか
- NET Framework4.5
- Windows SDK 8(Magic xpi スタジオを使用する場合)
- XSLT スタイルシートに日本語が含まれる場合、正しく変換されず、文字化けをおこします。
- ディレクトリスキャナー コンポーネントをトリガーとして使用する際、マスク欄に日本語 を使用することはできません。



- UDS 使用時、デバッグ時に UDS 定義内の Blob 項目の内容をコンテキストビューから表示する際、文字化けすることがあります。
- コネクタビルダーは以下の OS での使用時のみサポートされます。

Windows® 10

Windows® 11

- OData サービスは、別の複合型プロパティを含む複合型プロパティとしてのエンティティ プロパティの定義をサポートしていません。
- OData プロバイダは、Geography Collection 型に対する 1 回の呼び出しで複数のデータ 型を送信することをサポートしていません。
- DateInCalendar 関数は日本語環境では日付を以下の書式で指定しなければなりません。

DateInCalendar ('Calendar_1', '2020/01/01' DATE) ※Help の間違い

- カレンダーを指定する際、日本語環境では YYYY / MM / DD 形式である必要があります。 ※Help の間違い
- IMMをWSLで構成する場合、WSLはWindowsサービスから起動することはできません。

制約

- ダイジェスト認証を使用する RESTful サーバーでは、ダイジェスト認証が日本語のユーザー名を認識しません。

今後のバージョンでは、上記の既知の問題と制限事項を解消できるよう取り組んでいます。

修正された問題

Issue	Description
MXPI-14366	If Service Endpoint in the URL contained two Space characters (%20) then Checker issued warning, 'Environment variable does not exist.'.
MXPI-17864	The projects were found to execute despite license expiration.
MXPI-20020	While executing a project on AS/400 with MSSQL DB, on each execution of the Flow, an error occurred: 'Database Transaction could not be opened'.
MXPI-23620	The Magic XPI could not retrieve the Name and the Value field data in the MessageProperties while using the JMS ActiveMQ broker.
MXPI-24636	On executing a Directory Scanner project, Trigger issued an error and went to Flow named Error Flow thereby updating C.sys.InvokingBPName & C.sys.LastErrorFlowName with blank.
MXPI-24832	When a Web Service was deployed by Magic xpi had an XSD with attributes in the request, the WSDL file did not get generated correctly.
MXPI-24834	On using SugarCRM connector and trying to send an array to the Teams of the 'Accounts' module, an error occurred: 'Link field must contain array of actions, string given'.
MXPI-25109	While validating the SFTP resources in Magic xpi Studio, an error, 'Connection to the requested FTP server could not be established. FTP connection has failed. Reason: Connection timed out: connect' was issued.
MXPI-25305	The XMLExecute() method did not generate a non-empty document.

Issue	Description
MXPI-25392	While using Dynamic CRM with OAuth if tried to fetch data from email entity having attribute values, no data was returned for multiple rows.
MXPI-25550	While unzipping the archived files created using File Archive component that had '()' or '[]' in the file name, 'No file to extract' or 'Invalid file' errors occurred.
MXPI-25703	When the method RegExMatch was used to determine a number in a regular expression, it worked in Magic xpi whereas failed when used externally in Java.
MXPI-25975	When the first validation of DB2/400 Database Resource was unsuccessful, the library names showed garbage values, which were seen correctly only on restarting Magic xpi Studio.
MXPI-26309	While attempting to create flat file in Data Mapper Step by mapping Database source to Flat file destination, an unwanted space was found after each delimiter used to separate the records.
MXPI-26532	The XPI 4.13.5 required the 8dot3name support during the installation otherwise the setup displayed an error 'Magic xpi requires 8dot3name (short name) support when it is installed in a location that contains spaces'.
MXPI-28230	The picture size Limitation of Command Line Parameters field in File Management connector needed to be increased to 2048.
MXPI-28719	The data mapper could not fetch the data from the source to the destination when a Stored Procedure was used as the source input.
MXPI-28732	A .ZIP file returned as response from REST Client could not be extracted.
MXPI-28863	The ODBC Microsoft Access Driver displayed an error of invalid precision value for INSERT operation via an ODBC connection.
MXPI-28902	When SharePoint component was used to find SharePoint List, then it was observed that the query did not issue any result when a value was set to a Numeric-type column.

Issue	Description
MXPI-28917	The WSDL file was getting loaded in SoapUI successfully, but the same WSDL file was not getting loaded in Magic xpi.
MXPI-29016	When SharePoint component was used to find SharePoint List, then it was observed that the query did not issue any result when a value was set to a Numeric-type column.
MXPI-29173	The example scripts installed with Apache Tomcat v4.x - v7.x in the path "XPI\Runtime\apache-tomcat\webapps\examples" were vulnerable to cross-site scripting (XSS) injection and information leakage.
MXPI-29178	A particular project was getting restarted continuously and some Messages were stuck in the 'CHECKING' status and some others were stuck in the 'IN_PROCESS' status.
MXPI-29348	When SAP data was taken into a variable and the variable was used in an XML handling Step, then it threw an error regarding Invalid element path.
MXPI-29401	It was not possible to load the metadata inside a resource while attempting to connect to Dynamics NAV with OData4 using a specific URL containing hp://.../WSItemColorTransfer.
MXPI-29468	The namespace in response returned by Web Service Provider was different than the one that was sent in the request.
MXPI-29565	The ASCII transfer type file was uploaded with the garbage characters, when the AS400 FTP server was used with the Magic XPI FTP connector.
MXPI-29618	When a custom connector was created to return an exception under If-Else logic, then an error, 'Error 24: Error Code [9999] does not exist for the selected component [0]' occurred, and a blank value was returned in the desired variable.
MXPI-29848	The WSDL file was not getting loaded in Magic xpi successfully, the issue was resolved by shuffling a particular section of the file.

Issue	Description
MXPI-30047	The email Trigger became unresponsive at times and issued an error, 'javax.mail.FolderClosedException: * BYE JavaMail Exception: java.io.IOException: Connection dropped by server?'.
MXPI-30077	The Salesforce connector returned the timeout error "Error 1203: Salesforce call error: com.magicsoftware.ibolt.salesforce.IBSalesforceException: Salesforce getObjectIDbyField function error (ConnectionException): Request to https://services/Soap/u/51.0 timed out. TimeTaken=19744 ConnectionTimeout=600000 ReadTimeout=600000" for query operation and bulk update of records.
MXPI-30230	When a custom connector was implemented for error handling, a relevant error was displayed as per the logic but '8888: .Net Exception' occurred intermittently.
MXPI-30266	While configuring SharePoint connector for a particular user, an error, 'Failed to get SharePoint Online entities from the server' was issued.
MXPI-30345	Web Service Client with SAP SOAP Endpoint threw an incorrect error that said 'timeout for response', which is fixed by providing a relevant error message now.
MXPI-30367	It was observed for a Flat file that if there were more than 800 lines present in the collection, it did not create 'Headerline' in the generated output file.
MXPI-30433	While sending request through CMD using TCPListenerTrigger tool, the conversion of TCP to flow request was unsuccessful with an error, 'CONVERT_FAILED. Converting TCP to FlowRequest failed. countInstance failed. java.lang.NullPointerException: null'.
MXPI-30472	In REST Client Configuration Parameters when Header Parameters were defined in Camel-case, they were found to be converted into small case.
MXPI-30473	It was not possible to unlock the logically locked Components after incorporating the previous bug fix.

Issue	Description
MXPI-30480	When the project was upgraded to an upper version of Magic xpi, it was not possible to move a .TXT file from SFTP to LAN.
MXPI-30481	When defining the OAuth2 connection in the Resource and requesting the access token, the OAuth2 access screen was opened but User and Password fields were invisible.
MXPI-30491	When XML Encoding property of Data Mapper was set to 'Project Encoding' and when the data was passed to REST Client, then the output of REST Client was found to contain garbage.
MXPI-30495	The Magic xpi did not process iDocs when max-instance was set to 1, whereas all iDocs got processed with default max-instance setting.
MXPI-30514	If multiple projects (say 20 projects) were attempted to start using a Batch file that contained Start.link for each of the projects with adequate delay between all Start.link, it was found that some projects did not start and the log file mgxpimdl.log had mention of an error, 'CannotFindSpaceException'.
MXPI-30515	While trying to process multiple iDocs, it was found that one of the iDocs received in SAP ERP Trigger was missing a specific node thereby returned an error and did not process the iDoc successfully.
MXPI-30658	When an interface with a SOAP Web Service was exposed to a third party, penetration testing revealed that this SOAP WS was prone to 'XML External Entity Injections' security issue.
MXPI-30659	If a Soap service was being provided by Magic xpi using Tomcat, and instead of the full URL like "http://localhost:6060/services/SOAP_Test/Test_SOAP?wsdl", if only partial URL like http://localhost:6060/services/SOAP_Test/ was called, then Error 404 appeared with an unexpected information about the version number.
MXPI-30663	If two operations defined in the Web Service use different schemas then while generating the Web Service it was found that the body of each operation contained the same XSD schema.
MXPI-30664	It was not possible to validate GCC-High tenant SharePoint resource in Magic xpi Studio.

Issue	Description
MXPI-30666	In a specific scenario while performing a parameter search in a RFC search string, Magic xpi Studio became unresponsive and the search was successful only on restarting the Studio.
MXPI-30702	The Magic XPI did not support numbers after nine decimal places even though the custom picture for integer or setting for the flow variable in the data mapper destination was applied.
MXPI-30713	The rest client request logs displayed BOM characters when the XML encoding was set as UTF-8 in the data mapper.
MXPI-30717	There were vulnerabilities found in Magic xpi Monitor.
MXPI-30719	If the log level was set to 'ERROR'/'WARN' in logback.xml to get only Error(s) or Warning(s) in the log file, these errors or warnings were not getting logged into the generated log file.
MXPI-30794	When data was posted to a D365 Finance Operations entity using the D365FO component, and if a value below 0.10 was entered for a numeric field, then an error, 'Error 9999: Exception - [org.apache.olingo.commons.api.edm.EdmPrimitiveTypeException: The value '0.00' does not match the facets' occurred, thereby leading to unsuccessful registration of data to D365FO Entity.
MXPI-30797	When attempting to connect to Dynamics NAV with OData4 using the URL http://progress-mt-t01.office.rbc.ch:7048/PROGRESS_DB04_NAS_WS/ODataV4/Company('Intersport')/WSItemColorTransfer , the metadata cannot be loaded inside the resource.
MXPI-30817	The '.json' API specification file was not getting loaded in the Load OpenAPI of RESTful services.
MXPI-30820	After migrating projects to a newer version, it was found that out of the multiple iDocs sent to SAP/ERP at a time, only one iDoc was processed. To resolve this issue, we provided two options - one to Request to Headers and other to Return HTTP Status Code.
MXPI-30867	If multiple parameters were defined in Rest Client Resource, then it required manual refreshing of the schema on configuration screen to be able to view the updated configured parameters.

Issue	Description
MXPI-30868	It was observed that modifying RESTful service configuration made the original settings related to user credentials unavailable.
MXPI-30881	When Web Client Request contained '\$' character, an error, 'Error java.lang.IllegalArgumentException: Illegal group reference' occurred.
MXPI-30883	The HTTP trigger returned a timeout error within 30 seconds of trigger invocation and an error response was returned.
MXPI-30884	The length of password field was required to be increased from 30 characters to 100 to accommodate longer passwords.
MXPI-30892	The LDAP connector in Magic XPI returned a different value than the PowerShell script while converting the objectGUID to base64 for a user.
MXPI-30893	When different SAP usernames validated to the same SAP server address, the SAP ERP step that calls the RFC returned an error "JCoException: Destination IF19_10.249.75.128_00_200_d5cc3ecaab8dd595cd0f3224a6f2590c4027d07b does not exist".
MXPI-30895	While executing a project on WSL Ubuntu setup, 'Error 503: Service Unavailable' was returned by Restful API Trigger in Magic xpi Japanese version.
MXPI-30978	The SAP ERP Trigger's property 'Store trigger information in' did not contain information about Transaction ID.
MXPI-31052	The vulnerability report was generated for Magic XPI monitor.
MXPI-31056	While invoking a Web Service, the client Step was getting the error 'Web Service Client invocation failed com.google.common.util.concurrent.UncheckedExecutionException: org.apache.cxf.wsdl11.WSDLRuntimeException: ...'.

Issue	Description
MXPI-31193	On setting 'Start At Row' parameter to type Numeric, saving the setting, and reopening the screen, it was found that the type was getting changed to type 'Alpha'.
MXPI-31198	Web Service request failed when it contained the '<' character and when a previous bug fix regarding the failure of the request if it contained the '\$' character had already been applied.
MXPI-31200	On successful execution of Excel Component's 'Open Workbook' and 'Select Worksheet' methods, an invalid error code 1.0 was returned.
MXPI-31201	While using GetFile() method in FTP connector and trying to process multiple files, say more than 10 files, then Magic xpi Monitor displayed Error 505.
MXPI-31203	It was not possible to debug the project after applying a bug fix related to the projectsStartup batch file for starting multiple projects.
MXPI-31246	On generating SOAP Web Service using Magic xpi Studio, Error 500 - the Internal Server Error occurred.
MXPI-31334	While trying to connect to Soap Web Service through Magic xpi Web Service Client, an error, 'Error 753: Web Service Client invocation failed...' was issued at runtime.
MXPI-31390	While validating the Oauth email resource, an error, 'Some requested scopes were invalid. {valid=https://mail.google.com/, invalid=[offline_access]}...' occurred.
MXPI-31402	The HTTPTimeout being set to a single-digit value was too less for the function HTTPTimeout() to work correctly.
MXPI-31540	When a Flow was triggered using an HTTP Trigger, the default value of Flow Variable did not update as expected on utilizing 'GetObjectname()' function.

Issue	Description
MXPI-31600	When an external Apache Tomcat Web Resquester was used to call HTTP, then the function RqHttpStatusCode() issued an unexpected status code.
MXPI-31610	When the ODS Information property under Clear Mode Setting was disabled, then on restaring the project it was found that the ODS data was containing inaccurate values.
MXPI-31630	In a specific scenario, Magic xpi server crashed with the error, 'Abnormal termination with exit code [-1073741819], removing (restart-on-exit [NEVER]', and restarted automatically.
MXPI-31638	Soap Web Service was found to be prone to a security threat named 'XML External Entity Injections'.
MXPI-31639	Soap Web Service was found to be prone to a security threat named 'XML External Entity Injections'.
MXPI-31640	Soap Web Service was found to be prone to a security threat named 'XML External Entity Injections'.
MXPI-31698	While using DB2/400 DB, when Table Column name was defined longer than 20 characters, then Data Mapper displayed only first 20 characters of the Column name.
MXPI-31705	Two independent isolated bug fixes were required to be merged into a single file.
MXPI-31714	While using SugarCRM connector if an element had multiple values, Magic xpi did not retrieve all values.
MXPI-31718	While using PHDServer in Magic OPC connection, the resources are validated successfully but Device Lists are not retrieved after the Step configuration of a particular resource.

Issue	Description
MXPI-31753	While using READ operation in Excel connector and specifying Range on the empty data, an error occurs: 'Error 1801: Error in the transformation process. Error in the Read operation. com.magicsoftware.xpi.sdk.SDKException: Error in the read file operation due to {} java.lang.IndexOutOfBoundsException: Index: 0, Size: 0.'
MXPI-31814	Soap Web Service was found to be prone to a security threat named 'XML External Entity Injections'.
MXPI-31815	Soap Web Service was found to be prone to a security threat named 'XML External Entity Injections'.
MXPI-31816	A project containing large number of files issued the exception java.lang.NullPointerException thereby seizing the project execution.
MXPI-31840	It was observed that the Magic xpi Monitor missed to display a couple of parameters such as Flow Name, Step Name, etc.
MXPI-31869	Applications that use 'UriComponentsBuilder' to parse an externally provided URL and perform validation checks on the host of the parsed URL were found to be vulnerable to either an open redirect attack or to a SSRF attack if the URL was used after passing the validation checks.
MXPI-31893	The magic-xpi-imm-chart returned an installation failed error when the IMM deployment batch file was executed.
MXPI-31917	When the particular WSDL (easytest.wsdl) was loaded in WCF Client Resource, an error. 'Error: Create Proxy : Error: All parts of the message in operation must either contain type or element.' was issued.
MXPI-31924	A specific project executing Data Mapper Steps with a database caused memory leak.

Issue	Description
MXPI-31926	While using a particular WSDL with a Web Service Client, an error, '[ERROR] [Thread-15] [STEP: ::2] [FSID: 1:UNKNOWN] [com.magicsoftware.ibolt.commons.logging.Logger.logMessage : 283] XPA[null] java.lang.NullPointerException' occurred.
MXPI-31978	While attempting to generate documentation, some of the projects failed with the following error: 'MgxpilLog {DEBUG} - The "GenerateProjectDocumentation" task failed unexpectedly.'
MXPI-31995	The 'C.Sys.ErrorDescription' and 'C.Sys.LastErrorDescription' fields were blank when 'C.Sys.ErrorCode' was 505 while using the 'Multi Put' FTP method.
MXPI-32144	The service response against xpi-generated Web Service WSDL definition could not be validated.
MXPI-32145	The service response against xpi-generated Web Service WSDL definition could not be validated.
MXPI-32153	An error: 'Error 9999: Get operation failed. ...' occurred when Comma characters were present in REST Client path parameters.
MXPI-32158	When an email was sent using Exchange connector, it was sent correctly but it did not show-up in 'Sent Items' folder of the Mail Service Provider.
MXPI-32206	There were vulnerabilities found in Magic xpi Monitor.
MXPI-32207	In a specific scenario, memory leak was observed.
MXPI-32218	While attempting to connect to the SAP Payroll Web Service using Web Service Client component, an error occurred: 'Web Service Client invocation failed java.util.concurrent.ExecutionException: java.net.MalformedURLException: unknown protocol: d'.
MXPI-32246	IMM agent was seen offline due to which it was not possible to execute the projects.

Issue	Description
MXPI-32299	After restarting the IMM-agent, the running projects and the ongoing processes were terminated.
MXPI-32307	While loading WSDL in Web Service Client, an error, ' [ERROR] [Thread-15] [STEP: ::2] [FSID: 1:UNKNOWN] [com.magicsoftware.ibolt.commons.logging.Logger.logMessage : 283] XPA[null] java.lang.NullPointerException...'.
MXPI-32320	While attempting to use Get/Put methods with the FTP connector, Magic xpi monitor displayed an error: 'Error 503: File not found, cause: The message data cannot be written.'
MXPI-32326	When an email was sent using Exchange connector, it was sent correctly but it did not show-up in 'Sent Items' folder of the Mail Service Provider.
MXPI-32330	There were vulnerabilities found in Magic xpi Monitor.
MXPI-32352	In Magic xpi Japanese version, the data sent to the Web Service Provider was getting converted into unknown format.
MXPI-32353	When data was passed with Japanese characters from source XML to Web Service Client XML, the Japanese characters were getting converted to '?' characters. Also, the spaces between the data fields were getting automatically removed.
MXPI-32376	While using Web Service as a Trigger in Magic xpi Japanese version, an issue occurred when an attempt was made to fetch HTTP custom/default system header(s).
MXPI-32378	The list of Internal and External ports required for IMM was needed to be prepared in a distributable format and updated into xpi Help.
MXPI-32379	The custom fault string error message from Web Service was not getting updated with the fault description. Instead, the default error message was being issued.

Issue	Description
MXPI-32380	While using a Web Service with XML Document as Input Body, it was observed that the XSD provided at the time of Web Service creation and the one created on deploying the Web Service were different.
MXPI-32391	While using Web Service it was found that Magic xpi added <code><response></response></code> tag into the XML document containing response, which was an extra entity unaligned to the desired XSD structure.
MXPI-32405	While validating the SFTP Resource, an error, "Could not authenticate SSH client: PARTIAL" occurred.
MXPI-32423	It was not possible to use the same operation name across different Web Service definitions as only unique names of operation were permitted.
MXPI-32424	It was not possible to set the HTTP Status Code explicitly for the Web Service Trigger.
MXPI-32518	If the 'Packages' containing a set of stored procedures that returned numeric value was used in Oracle DB, it was not getting parsed in the Data Mapper source.
MXPI-32526	The Magic XPI updated the status of the processed IDoc in the SAP ERP server immediately after the trigger was executed and not at the end of the flow.
MXPI-32538	The ALE confirmation update for SAP iDoc Trigger was getting sent back to SAP before the Trigger completed flow execution.
MXPI-32562	While using JDBC connector with MySQL DB, an erroneous SQL statement was getting generated that had unwanted character 'N' prefixed before all the values of query parameters.
MXPI-32614	The REST Client with Local Agent (LA) encountered an error "Error 1601: Step invocation failed: TLS file not found. java.nio.file.NoSuchFileException: C:\java\conf\tlsProtocols.dat" if the right installation path was not set in the connectors.xml via config.ini.
MXPI-32619	In a specific scenario, Magic xpi Studio stopped functioning.

Issue	Description
MXPI-32637	Magic xpi applications that used UriComponentsBuilder to parse an externally provided URL and perform validation checks on the host of the parsed URL were suspected to be vulnerable to an open redirect attack, or to an SSRF attack if the URL was used after validation checks. The threat is removed now.
MXPI-32672	When XML-Replication was set to Yes at the Data Mapper destination side, Magic xpi seized functioning at Data Mapper step and did not generate XML document.
MXPI-32683	In a particular Magic xpi Japanese version, on setting XML encoding to Unicode UTF-8 and executing the Flow, extra garbage characters were getting added into the XML document.
MXPI-32738	While using SAP ERP connector it was observed that the flow was getting halted at breakpoint and if flow execution was complete, then the thread was not getting returned to the SAP ERP connection pool.
MXPI-32757	It was not possible to customize REST service Return Code and Description for the error code 408.
MXPI-32762	When OPC connector Step was configured, the Destination panel did not contain XSD schema depending on the addresses and static tags.
MXPI-32786	On revalidating the Exchange resource, a new Refresh Token was not being generated thereby issuing a runtime error: 'ERROR: Validation Exception: Server returned HTTP response code: 400 for URL: ...'.
MXPI-32794	While using Web Service Client component it was observed that the response data appeared without spaces.
MXPI-32831	In a particular XML file, an extra tag named <response> was unduly getting added.

Issue	Description
MXPI-32917	While executing a project with two instances in a cluster environment, and using SAP ERP Connector, one project failed sporadically on one server with an error, 'Error UNKNOWN] [com.magicsoftware.sdk.sapR3Connector.step.SapR3StepAdaptor.invoke : 91]...'. Another instance of the same project was executed without error on another server.
MXPI-32932	The timestamp of the Production Activities under the BAM tab were found to be different than those under the Activity Log.
MXPI-32943	On using Email Trigger to receive emails from Inbox, it was found that the Trigger started, but all the Emails stayed unread in the Inbox possibly due to Search of Emails using Message ID being slow.
MXPI-32950	A particular project was not able to execute in Runtime and in Debug.
MXPI-32974	When certain data was sent to Web Service, the SoapFault XML displayed the message, 'Illegal base64 character 20'.
MXPI-32975	When certain data longer than 32 characters was sent to Web Service, the SoapFault XML displayed the message, 'Last unit does not have enough valid bits'.
MXPI-32987	The error message in case of Web Service Trigger time-out was not clear enough to understand the reason of the error. This bug is fixed by replacing the earlier error message with the clearer one.
MXPI-33037	Incorrect value was returned in the result when Float variable of JDBC was mapped to call a Flow variable.
MXPI-33038	While working with JDBC in a Call Flow, an error, 'Exception: java.lang.Exception: Invalid pseudo reference!' occurred.
MXPI-33039	For a specific SQL query, data was not getting transferred from JDBC source to XML schema at the destination in Data Mapper.
MXPI-33069	While using Rest Client resource, the OAuth process failed with an error: 'Could not sign in. This browser or application may be insecure. Please try a different browser. If you are already using a supported browser, you can try again to sign in.'

Issue	Description
MXPI-33070	While using multiple Microsoft OAuth resources, validating them successfully, and using them in the quick receive Email Step, only one resource was found to be working and others issued an error, 'Error 103: Receive Mail error: javax.mail.MessagingException: A3 BAD User is authenticated but not connected.; nested exception is: com.sun.mail.iap.BadCommandException: A3 BAD User is authenticated but not connected.'
MXPI-33120	While using Exchange Step to receive the e-mail, it was found that the generated XML file was invalid when the sender name contained a special character.
MXPI-33306	The Steps 'Multi Get' and 'Log multi get with code' were issuing an error, 'Error 505: Operation failed, cause: com.enterprisedt.net.ftp.ssh.SSHFTPClient cannot be cast to com.enterprisedt.net.ftp.ssl.SSLFTPClient.'
MXPI-33330	The API performance degraded and failed with a 500 status code (Socket Timeout) as the CPU of the Windows machine was occupied between 93 and 100% when a large number of requests were sent through JMeter on IMM 1.5 of RHEL.
MXPI-33462	The HTTP trigger returned asterisk characters for numeric variable or wrong values after the 16th digit for the alpha variable, if the picture numeric 18.0 was set.
MXPI-33479	The vulnerability assessment report was generated for the Magic XPI monitor.
MXPI-33568	When the destination schema was XML and the source object was a JSON file, the trailing spaces were getting removed.
MXPI-33584	While executing the project containing HTTP Trigger Flow and waiting for a response, HTTP Error 500 Timeout occurred in the Magic xpi Japanese version when the ubuntu machine was restarted.
MXPI-33875	When multiple replicas of an element were defined, then it was observed that only one element appeared in the resulting XML.
MXPI-34048	While using REST Client connector with OAuth 2 security, a runtime error occurred: 'Error 9999: Getting the [] parameter value failed, cause: The [OAuth Refresh Token] parameter value is not defined.'

Issue	Description
MXPI-34294	When the externally generated WSDL was integrated with Magic, the WSDL was altered, and the response was based on the Magic WSDL structure.
MXPI-34433	The Magic XPI studio displayed an error, "Connection to the requested Database could not be established" while validating any JDBC resource.
MXPI-34887	The HTTP Trigger did not respond for a long time while IMM was running. IMM was required to restart for HTTP Trigger to work.

About Magic Software Enterprises

Magic Software Enterprises ([NASDAQ: MGIC](#)) empowers customers and partners around the globe with smarter technology that provides a multi-channel user experience of enterprise logic and data.

We draw on 30 years of experience, millions of installations worldwide, and strategic alliances with global IT leaders, including IBM, Microsoft, Oracle, Salesforce.com, and SAP, to enable our customers to seamlessly adopt new technologies and maximize business opportunities. For more information, visit www.magicsoftware.com.

免責事項

Magic Software Enterprises Ltd provides the information in this document as is and without any warranties, including merchantability and fitness for a particular purpose. In no event will Magic Software Enterprises Ltd be liable for any loss of profit, business, use, or data or for indirect, special, incidental or consequential damages of any kind whether based in contract, negligence, or other tort. Magic Software Enterprises Ltd may make changes to this document and the product information at any time without notice and without obligation to update the materials contained in this document. Magic is a trademark of Magic Software Enterprises Ltd.

Copyright © Magic Software Enterprises, 2024

